

夏期講習会の成果は



角田 秀明 議員

おおむね好評

納税状況について

角田 世界同時不況が日本にも押し寄せ、100年に一度ともいわれる不景気で、我町でも無縁ではない。8月28日現在の失業率が5.7%とかつて経験がない程の状況であります。この景気悪化の中、町民の納税状況及び、法人税や20年度の還付状況を伺いたい。

町長 今年度の一般会計現年課税額は、18億7580万9千円で、前年同期と比較すると8782万4千円の減額、率にしますと約4.5%下がっている。収入額では9億1238万9千円となっており、前年同期と比較しますと、9858万1千円の減額、率にすると約9.8%下がっている。7月末日現在の、町民税（個人分）課税額では2078万5千円の減額、収入額1149万3千円の減額、町民税（法人分）課税額では、4965万6千円の減額、収入額は前年度と比較して、520万9千円の減額となっており、法人税については、収益の悪化し

ているところから当初見積りよりも大幅に落ち込んでおります。尚、予定納税に伴う還付状況ですが、直近の実績としまして、8月24日現在で26件、1142万5千円を還付しました。

交付金の状況について

角田 今年度、地域の景気対策として、国から数億円の交付金が来ている。少しでも多く町民のために使ってほしいとの想いで、町の使途目的を伺いたい。

町長 当町におけるこれらの交付事業の取り組みについては、地域活性化、経済危機対策及び公共投資臨時交付金事業の実施計画のとおり、合計で8億9千万の臨時交付金を財源として、積極的に事業に取り組んでまいります。学校施設の耐震化等の事業に重点的に配分し、中学校改築事業にあわせ幼稚園、小学校の耐震補強事業に早期に実施することができました。その他

の事業については、地元事業者の活性化として、生活道路の舗装等の整備6路線や町施設修繕の集中的な整備を計画している。産業の振興の分野については、農産物のブランドづくりを進めるための産地競争力強化事業や水田冠水防止対策として、小池地下排水路の取水堰整備事業等の農業の振興、商工業の振興としては、低利での資金融資事業の継続や地域支援センターの立ち上げ等を計画している。事業実施の際は、可能な限り地元業者を活用するよう努めてまいります。

夏期講習会について

角田 今年度初めて教育委員会が独自で実施した、小中学校の夏期講習について、敬意を表します。子供達の反応や父兄の皆さんの反響をアンケート調査をした結果及び、これからも継続して実施して行くのかを伺いたい。

教育長 対象となった6年生は、国語と算数を3日間、中学3年生は、国語・数学・英語について5日間を実施しました。受講希望者は、6年生が180名中111名、中学3年生は177名中85名の参加者を得ることができました。講師には民間の塾講師を招き、学校側との事前協議を行い、各教科強化すべき箇所等を重点的に指導

しました。アンケート調査結果では、大変勉強になったとの回答が小学校97%、中学校95%ありました。保護者の皆様の反響については、今後、矢吹の教育を考える会やPTA連絡協議会等を通じて、ご意見や要望をいただき、来年度から更に充実した実施につなげていきたいと思っております。



夏期講習会（中学生）

町政を問う



大木 義正 議員

新型インフルエンザ対策は

万全の対策で臨む

地方分権と 町づくりについて

大木 新しい政権は地方分権を推進し、いわゆる「ひもつき補助金」を廃止し、地方が使い道を自由に決められる一括交付金を増やしていくと表明しておりますが、そうすると各自治体の企画力、政策力、裁量が問われることになると思いますが、町としてどのような方針、姿勢で取り組んでいこうとするのかお伺いいたします。

町長 政権与党となる民主党のマニフェストでは、地域主権を確立し、地方の自主財源を大幅に増やし、地方が自由に使える一括交付金として交付するとあるが国の財政も厳しく、財源措置を明確に表明していないため、地方分権の推進に対する国の方針を注視している。町の将来像である「みんなで支え創造する私のふるさと。さわやかな田園の町・やぶき」を実現するため、今後、議会、住民の対話により協議を深め、

多くの声が反映されたまちづくり総合計画を策定し、政策の実施に必要な財源を確保できるように要請してゆきたい。

町のPRについて

大木 今年7月に首都圏での本県の観光情報の発信、県産品の販売、伝統工芸品などの魅力をPRする「県八重洲観光交流館」がオープンしましたが、矢吹町としても積極的に活用して首都圏に矢吹町を知ってもらい、興味を持ってもらって矢吹町に足を運んでもらう努力も必要だと思いが町の考えをお伺いいたします。

町長 福島県八重洲観光交流館の活用については、同館入場口に設けてある県内市町村パンフレットコーナーへ、町の観光パンフレットを250部設置してあります。さらに観光情報の発信、農産物を初めとする産品等を広く周知するため、同館イベントスペースを利用したイベントやPR事業

の積極的な取り組みについて検討を重ねている。その他三鷹市におけるわくわくフェスタや商工祭り、またアクアマリンパークを会場に、首都圏からの誘客を図るため県が毎年開催している物産フェア等、農産物を初めとする産品の出展を行うなど、今後もさまざまな機会をとらえ、広くPRしてまいります。



インフルエンザ対策（役場庁舎）

新型インフルエンザ 対策について

大木 新型インフルエンザが猛威を振るっているが、町の公共施設等の感染予防策と施設の使用制限の有無等、今後どのように対応していくのか。又、保育園、幼稚園、小学校、中学校についても感染予防、拡大防止策をどのように取り組んでいくのかお伺いいたします。

教育長 今年8月あさひ保育園と農業短大において、集団感染が確認され、それぞれ休園や休校の措置がとられました。発生以降、詳細な情報収集と伝達、発症者の対応、感染拡大防止策を迅速に実施したことにより、現在インフルエンザの罹患者はおりません。公共施設等は県対策本部の基本的対処方針に基づき、又学校関係は県対策本部教育部が作成したマニュアルで対応している。各施設の入口に消毒液を置き、来場者の方々や出入場者に消毒をお願いしております。